

「家がいいね」 第232号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023.9.5

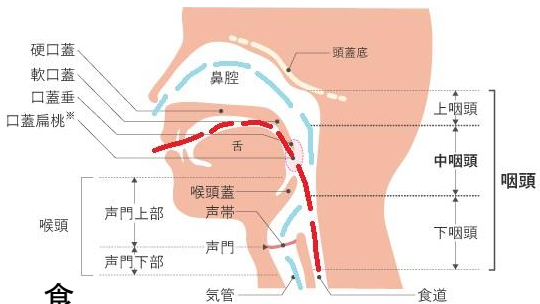
鈴虫の音を聞かせて頂ける家があっても、外は暑い日が続きます。涼しくなるまでの辛抱ですね。
「在宅とは？」 どう相談してイイのか分からない時があると思います。選択すべきドアが沢山あり、押すのか引くのか、開けてもいいのか困る時には**在宅ドア**(0596・63・5226)に連絡を。開院の9時〜17時 悩みをお聞きします。受診とは関係なしの無料の相談窓口です。



息をすること、食べることを

生きていくためには、どちらも欠かせません。あまりに自然に体に備わっているので、どちらかが思い通りにならない時に、戸惑いは大きいです。生きていくことを、出発点に戻り考えてみます。誕生の瞬間、赤ちゃんは泣き声と共に登場します。これは肺呼吸の開始を瞬時に始めているわけで、羊水中から大気に出て、自らの力で生き始めます。イキ〓息〓生き と言葉の繋がりは不思議です。

人生の終わりに経験したくない状態(誤嚥性肺炎)の時、何が人体に起きていますか。



まず呼吸をすること、

青色の線が基本行動です。
食べ物が呼吸の道を横断する赤線、踏切の遮断機のように息の道筋を止め、安全に通過させる場所が咽頭です。瞬時〓反射として自然の切り替えです。

体力が落ち、不自然な切り替えの場合、気道に食物が落ち、誤嚥になります。

何を優先すべきか、まずは安全な息を選びます。体力の落ちる時期ならば、落ち着いて食物を通わせる方法や時間を、共に探す作業が必要です。胃瘻など強制栄養は、個々の例で考えるべきです。

「聞き書き」は人生に必要なと再確認
 聞き書きを広めたい人達の学校が熊本市であり、私も参加しました。校長は柳田邦男さん。人生は物語の中にあると、語り記す意義を強調されます。

人は口頃、「話せないしやべりたくない」もの。気持ちには、分かりあいたい、相手と話して、分かり合えるかどうか。いつ気持ちを、しゃべるかどうかを考え、結局は時期を失うものです。



近い関係ゆえ、あえて言わないでこうと考える一方、他人でもこの人なら話せるかもしれないと思うことも。人生の大事な話を伺える、機会を作り、話し手だけの唯一の本にしてお渡しする、それが「聞き書き」運動。全国に広がっています。人生と同じです。「明日は自然に来ると思っていたのに、こんな日が来るとは」という事態の前にお互いを語り、文に残すことを始めましょう。

臨時休業のお知らせ

10月28日(土)は、研修のため休診します。
 11月25日(土)も、休診します。



自宅での人生を
 最期まで支援します

〒516-0805
 三重県伊勢市御園町高向 927
 電話 0596-20-8104
 ファクス 0596-20-8105
 メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可